

大安寺報

名句に学ぶ

念ずれば花ひらく

坂村真民 (詩人)

念ずれば花ひらく
 苦しいとき 母がいつも口にしていた
 このことばを
 わたしも いつのころからか
 となえるようになった
 そうして そのたび わたしの花が
 ふしぎと ひとつ ひとつ
 ひらいていった

この詩を書いた坂村真民 (しんみん) 氏は、一遍上人の影響を受けた仏教詩を編む詩人としても知られています。幼い頃に父を失い、どん底の生活の中で育ててくれた母が常々口にしていた「念ずれば花ひらく」というこの言葉から、私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

冬の厳しい寒さを経た今年の春、当寺の境内では桜の花をはじめ、ヤマツツジなど、多くの花が花ひらき、私たちの目を楽しませてくれています。これらの花は、誰から命令されることもなく、咲くべき時節が来ると咲き、散るべき時節が来ると散っていきます。



「念ずる」という私たちの行為は、「種」のようなもの。「何かを成し遂げたい」という願いを「種」として持ち続けることで、いつかは花がひらくように成就するといふことをこの詩は言い表しているのです。しかし、花の種が芽を出し、茎を伸ばし、ひらくためには、肥料、水、太陽の光、気温といったいくつもの条件が必要です。それらの条件を、仏教では「縁」といいます。つまり、その「縁」が整わなくては、私たちの「願い」もまた成就し得ないのです。だからといって「願い」自体をあきらめてしまつてはいけません。常に「願い」を保ちつづけ、あきらめず、時節因縁が整うことを待つことが大切なのです。

初心を忘れている時は、「念じなくては成就しない」と。成就が困難な時は、「念じていればきつと成就する」と。時には「叱咤」となり、時には「激励」ともなるこの言葉を、何かをあきらめかけた時、思い出したいものです。

合掌

当寺の最新情報はこちらをご覧ください

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>

twitter

@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。

facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

※ご覧いただく場合は、facebook アカウントが必要です。



携帯サイト QR コード

仏事

Q & A

第十三回

Q. 「法事」の意味とは？

A. 法事の「法」は「仏法」の法。亡き人のために、追っ功徳を積む。追善供養という意味があります。

また、法事は、亡き人を手を合わせ、在りし日の姿や生前の行いを追慕する機会でもあります。そのことを通して残された私たちの日頃の行いを振り返り、より善き生き方を亡き人の前でお誓いする、大切な機会でもあるのです。

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
 ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)